

# まちなかに活力を

たくさんの知恵で

## 新しい 中心市街地 活性化基本計画

市は、平成11年7月に策定した中心市街地活性化基本計画を基に、市街地の整備改善として、駅東市民広場、イベントホール赤れんがや駅周辺施設の整備、商業の活性化として、空き店舗対策や旧ラルズ跡地の整備など、様々な事業を行ってきました。

しかし、全国的に中心市街地の活性化が十分に図られていないということで、国は、平成18年に、郊外での大規模な集客施設の立地抑制を行うとともに、中心市街地の活性化に取り組む市町村を重点的に支援することを目的として、まちづくり三法

## これまでの基本計画との相違点

項目	現在の計画	新しい計画
計画の柱	市街地の整備改善 商業の活性化	市街地の整備改善 商業の活性化 都市福利施設の中心市街地への集約 まちなか居住の推進 公共交通機関の利便増進
国の関与	報告だけ	内閣総理大臣の認定
実施主体	市 商工会議所	市 中心市街地活性化協議会
取組期間	10年以上の長期計画も含む	概ね5年間
達成目標	なし	数値目標を設定

新しい計画ではこれらの他に、人口減少・少子高齢社会に対応した、高齢者など多くの人にとって暮らしやすい生活環境を実現することや、活発な社会的・経済的・文化的活動により、活力のある地域経済社会を確立していくことを観点として、目標に盛り込むことが求められています。

(中心市街地活性化法、都市計画法、大規模小売店舗立地法)を改正しました。  
市も、これからの少子高齢化が進む社会で、中心市街地の果たす役割

は重要になると考え、今後もより一層中心市街地の活性化を推進するため、新しい中心市街地活性化基本計画の策定を進めています。  
この新しい計画は、平成17年度に

策定した都市計画マスタープランを実現していくための具体的事業を盛り込んだ計画でもあり、その中で掲げた「コンパクトで便利な都市」「住み心地がよく、訪れる人も楽しめるまちなか」の実現を目指していくものです。

### 計画策定の流れ

新しい計画の策定は、まず今までの取り組みを評価して、成果や反省点を踏まえることから始めました。

次に、中心市街地の現状を整理するとともに、今まで多くの調査を行ったり、アンケート調査を実施したりした結果を踏まえて、現在は、計画の目標や基本方針、事業の検討を行っています。

今後、設立予定の中心市街地活性化協議会と意見交換を行いながら、計画の素案を作成し、今年の秋から冬にかけて、市の広報やホームページを通じて市民の皆さんに公表し、意見を募集します。

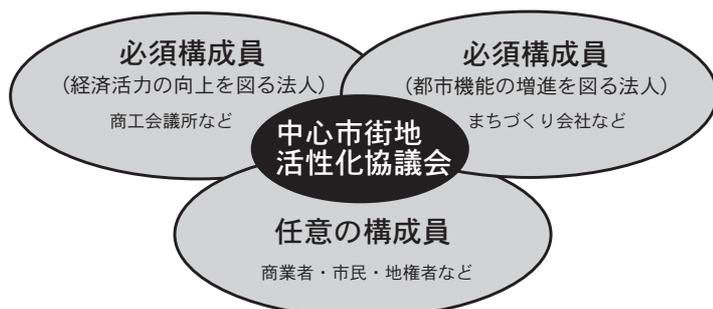
その後、市民の皆さんや中心市街地活性化協議会から出された意見を反映した計画を、今年度中に策定することを目指しています。

市は、6月に新しい計画に関して、まちなか・郊外居住者の方から、

### 中心市街地活性化協議会とは

この協議会の主な役割は、市が新たに作成する中心市街地活性化基本計画について、市に意見を述べることや、民間事業の企画・調整と取りまとめを行い、中心市街地活性化のために様々な議論を行うなど、まちづくりの司令塔となります。

9月に、必須構成員である商工会議所およびまちづくり会社が中心となつて、この協議会の準備会が立ち上がる予定です。



それぞれ、中心市街地に何を求め、何を期待しているのかのアンケート調査を行い、意見をいただきました。

アンケート調査での自由意見

○基本方向性

- 地球温暖化防止の視点から、徒歩圏内で買える物できるのが一番。
- 公共施設投資は中心部に集中し、郊外は民間企業に任せる。
- 小さく集約した街をつくり、除雪等のコスト縮減に努めて欲しい。
- 便利性的のみを追求せず、多少不便さはあっても、ゆとりのある街であって欲しい。
- 税金投入等の手助けはせずに、その気になるまで待つべき。
- 魅力あるまちなかを、そこで働く人達が考え、努力すべき。

○まちなか環境

- 市全体の歩道や公園等に花壇を整備して、花のある街に。
- 緑豊かなゆとりあるまちをつくり、教大生のアイデアを生かしたアートも配置する。

○にぎわい・活力

- 何でもそろっている商店がまちなかに欲しい。
- できるだけ低料金で配達してくれるサービスをする店が増えて欲しい。

- 郊外では出せない、別の魅力を探してある事を期待しています。
- 広場を利用した定期的イベントの開催。空き地の活性化を。
- 後継者のいない個人店舗で、自分の店を持ちたい若者たちが経営出来る様な仕組みをつくる。
- 同じ業種をエリアで区画出店させる必要あり。
- 畑の食材を使った、おいしい食べ物でまちおこしを。

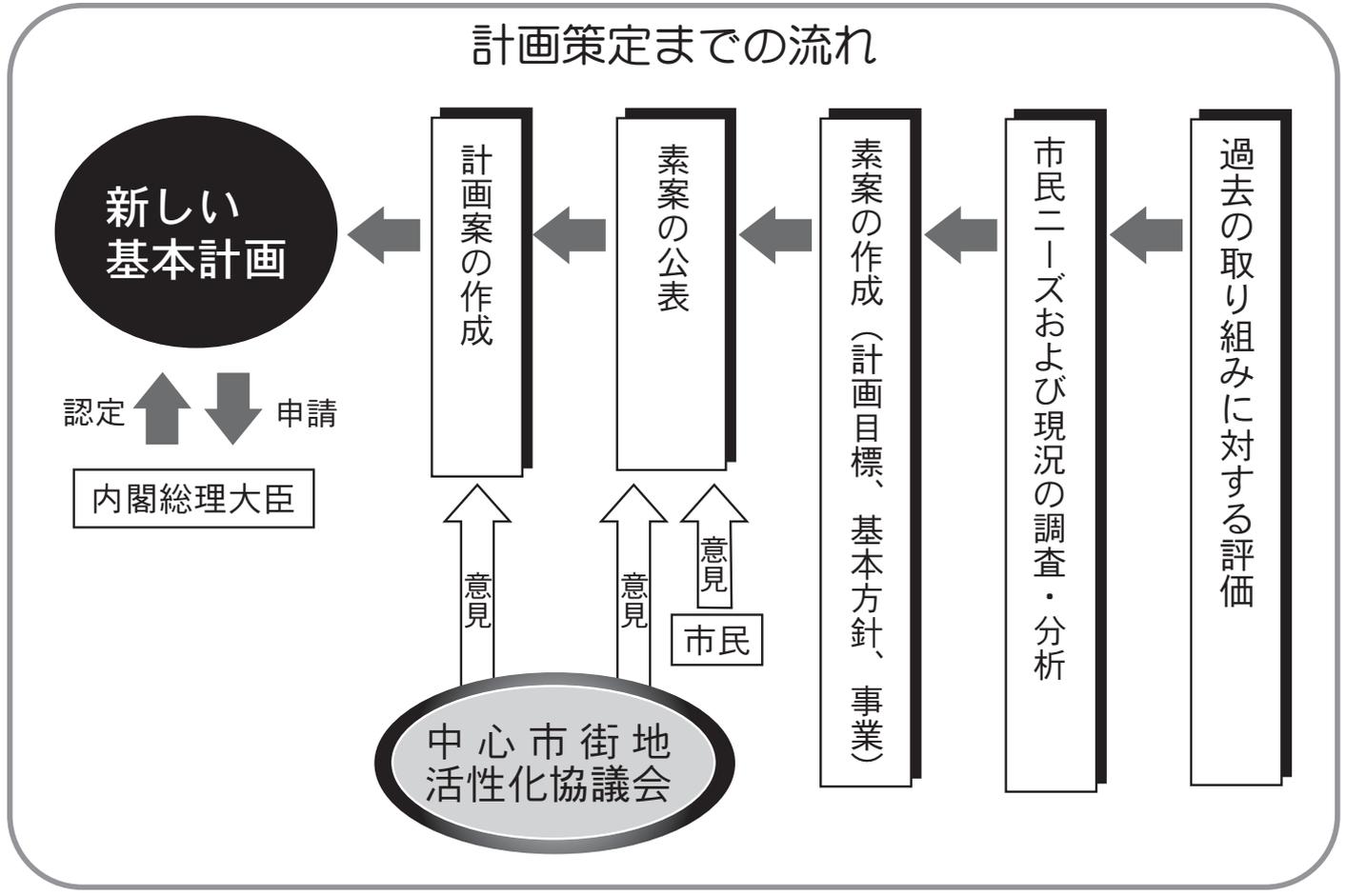
○まちなかで小規模でも楽しくて気楽に参加できるイベントを。

- 小さな商店で、昔ながらの商店街を復活させてはどうか。
- 商店街の活性のためにもチャレンジショップは続けた方がいい。
- 無料の駐車場の設置と、個人店舗を立体的に集約し、併せて図書館等の文化施設を併設する。
- 空店舗をダンスやフォーケダンス、卓球などのサークルに有料で貸し出してはどうでしょう。
- 子供の興味のわくようなイベントを開催し、大人から子供へ引き継いでいけるような行事があれば、地域の活性にもつながる。

○交通関係

- 中心街に無料あるいは割引のある駐車場を整備する。
- 市民と関係の深い施設を結ぶ循環バスを走らせる。

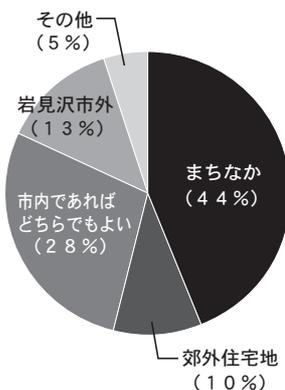
計画策定までの流れ



## 居住に関するアンケート調査

### まちなか居住者

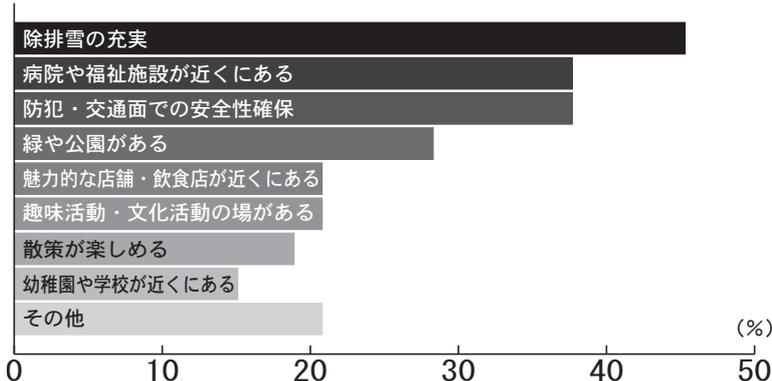
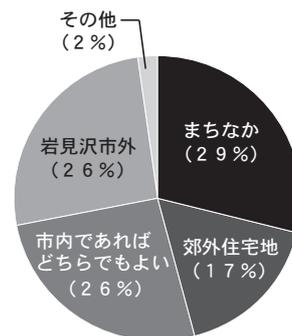
現在、まちなかに居住している方のなかで、住み替えを考えている世帯は約35%あり、その内、どこに住み替えたいかを下のグラフにあらわしました。



### 郊外居住者

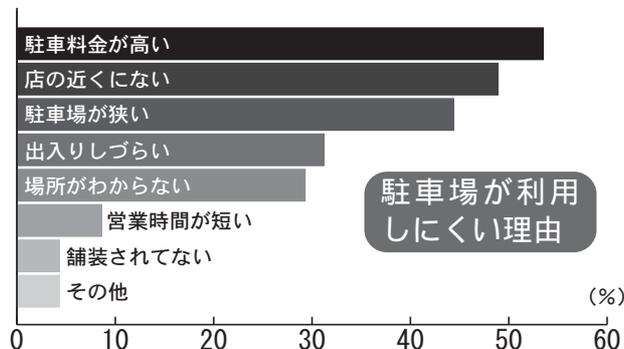
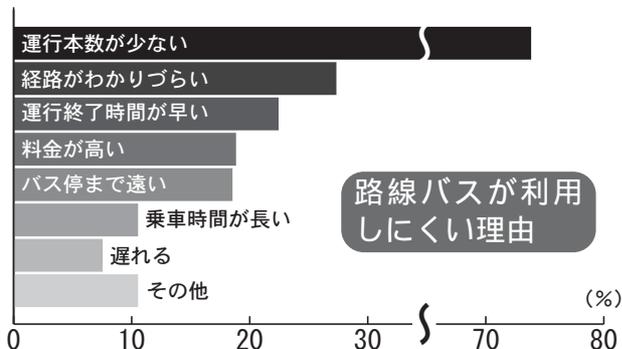
現在、郊外に居住している方のなかで、住み替えを考えている世帯は約23%あり、その内、どこに住み替えたいかを下のグラフにあらわしました。

また、どんな環境を整えばまちなかに住んでみたいかを下のグラフであらわしました。



## 交通に関するアンケート調査

郊外に居住している方で、路線バスが利用しにくいと答えた方が7割近く、また駐車場を利用しにくいと答えた方が9割以上あり、それぞれの理由を下のグラフにあらわしました。



項目を設定し、市内の2,000世帯にアンケート調査をした結果です。

問合せ先 市都市整備課

◆ 中心市街地活性化基本計画は、これからの岩見沢のまちづくりにとつて、とても重要なものです。皆さんから、今までいただいた意見と、これから作成する素案に対する意見を参考に基本計画をつくりあげ、中心市街地の活性化に向けた作業を、市民の皆さんと一緒に進めていきます。

◆ (各項目毎に抜粋)

- 退職(定年)者に岩見沢に住んで頂くよう全国にアピールし宅地用土地等を整備すべきである。
- まちなかに公営住宅ではなく、民間業者が共同住宅を建設し、古いアパートもどうにかする。
- 子育て世代の方は、駅、バス停、学校や病院が近いところを希望すると思うので、まちなかの公営住宅に入りたい人は多い。
- まちなか居住
- 子育て中の方のために、中心部に託児所を設け、親子のふれあいを高めることも重要ではないか。
- 市の出先機関も中心部にあると助かります。
- 福祉関係施設は中心部に持つてくるべきです。そうすると、商店街との相乗効果もあるのでは。
- 高齢者・福祉・子育て支援